

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。今年もいよいよ師走。寒い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。

日常会話の中に浸透している仏教用語をお伝えしているかわら版。仏教用語がたくさん定着しているのには驚きです。

今年はどうな一年でしたでしょうか。年末には一年を振り返り、新年から気持ちも新たに何かに取り組みようという覚悟を決める人も多いことでしょう。

禁煙を決意する人は「こんりんざい」、タバコは吸わない、受験に向けて勉強に力を入れようと思う人は「こんりんざい」、急げない」等々、覚悟にもいろいろあります。

さて、時々使ってしまう「こんりんざい」という言葉は「金輪際」と書きます。「金輪際」も「覚悟」も仏教用語です。

まずは「金輪際」。インドの古い世界観では、世界の中心に「須弥山(しゅみせん)」と呼ばれる山が高くそびえています。漢訳仏典では「妙高山」と表わされることもあります。「須弥山」の周囲には「四大

州」と呼ばれる大陸があり、それを支えている土台のことを「金輪(こんりん)」と呼びます。その「金輪」の最も深い部分が「金輪際」。世界の果てを表します。転じて、物事の極みや極限状態を指すようになりました。

次に「覚悟」。一般に「覚悟」と言えば、重大な決意や決心を意味します。一方、仏教の「覚悟」は、真理を覚(悟)る、真理に目覚めることを意味します。

「涅槃経」という仏經典には、「仏とは覚と名づく。自ら覚悟し、また能く他を覚す」と説いています。「覚悟」を得た人を「仏」と称し、その教えに随うのが仏教徒です。

時代劇などで、斬りかかる相手に「お覚悟」と叫ぶシーンがよくありますが、これは「もうこれまでと覚りなさい」という意味で使われています。「もうだめだ」ということを「覚りなさい」ということですね。

人間は独り善がりな存在です。自分だけが正しいと思いつつ、自分だけで何かを成し遂げられると過信し、「私には覚悟がある」「必ずできる覚悟がある」などと「覚悟」を乱発します。

「覚悟」ができればそれは「仏」になるということ。人間はそんなに簡単に「覚悟」はできません。

「無量寿経」という仏經典に「独り来り、独り去りて、ひとりとして随う者なけん」と書かれています。人間は一人ひとりが独立していますが、この世は独りでは生きていけないものであり、何かに生かされているのが人間という存在。

「覚悟」「覚悟」と力むよりも、他者や見えざるものに感謝して、「おかげさま」の気持ちで生きるのが大切です。

和歌にも「おのが目の力で見ると思ふなよ月の光で月を見るなり」とあります。自分の「覚悟」で何かができるのではなく、何かの「おかげさま」で自分が成り立っていることを「金輪際」忘れないことです。来年は心がけたいものです。

日常会話の中に浸透している仏教用語。まだまだたくさんあり、知らないことばかり。奥が深いですね。それでは皆さん、良い年をお迎えください。



定員40名 第15回「弘法さんを語る会」

般若心経と法華経

— 仏教の教えに親しむ —

午前10時・午後1時・3時の
3回開催予定
(日/祝)

専修院

大塚耕平
頂きます～

【事務局】あさい

満員御礼

TEL 052-757-1955 (定員40名、次第締め切り)

お申込制
参加無料

